

【巻頭言】

母校の歴史と精神を後ろ盾に

たまだ あきら
玉田 彰(53 回生)

歴代の錚々たる大先輩、さらには 3 期 6 年にも渡り大役を務め上げられた神澤前会長のあとを引き継ぎ、歴史ある学友会の会長に就任することは誠に身の引き締まる思いです。思い起こせば約 40 年前、島津製作所に勤務していた父の勧めで京都放射線技術専門学校に入学、当初は聞きなれない言語や公式に「場違いな世界に足を突っ込んでしまった」と後悔するばかりでした。しかし、山田先生、西谷先生の熱血指導と面倒見の良い同級生の力添えにより辛うじて国家試験に合格することが出来たのです。

卒業後は大阪の住友病院に就職し 38 年、間もなく定年を迎えるにあたり「これまで世間並みの生活が出来たのはひとえに母校とご指導をいただいた多くの恩人のおかげ」と感謝するばかりです。浅学菲才の私がこの度会長をお引き受けした理由は「母校と恩人への恩返し」とご理解いただければ幸いです。

私は平成 23 年から 6 年に渡り学友会理事として神澤前会長の任務を拝見させていただきましたが、予想以上にハードであるとの印象です。年 4 回の理事会、入学式、卒業式、就職懇談会、オープンキャンパス等で年に 10 回近くの園部通い(幸いなことに私の自宅は京都嵯峨野なので約 50 分の道のり)、全国の支部総会への参加(遠方は 1 泊 2 日)、加えて巻頭言の出稿やあちこちで祝辞を述べる機会が多くなることはかなりのプレッシャーとなっています。同様のことは前会長も以前の巻頭言で述べられていたと記憶しますが、「作家でもないし、政治家でもないし」との開き直りをもって臨むしかないと覚悟を決めております。

一昨年の 10 月に会長の名代として北陸支部総会に参加させていただいたことがありました。初めての理事会代表に加え 1 泊 2 日での参加に不安だらけでサンダーバードに乗車。ところが講演会終了後の懇親会が始まるや否や、柴田前支部長をはじめ会員の皆様が次々とお酌して下さりすぐに意気投合、2 次会は部屋に戻って夜遅くまでの大宴会、温かく迎え入れて下さった先輩、後輩に心から感謝しつつ、親睦を深められた満足感を土産として帰路に着いた事が思い出されます。このような母校ならではの雰囲気、言い換えれば「母校の歴史と精神」は学友会活動を継承するにあたり大きな後ろ楯となり、また今後の各支部総会にも何の不安もなく参加できるものと確信しております。

5 月より学友会の理事会は新たなメンバーを迎え、約 3 分の 1 が短大卒業生となりました。新体制とは言え、まず初年度は肩肘張らずに学友会活動のベースである「会員相互の親睦を図り母校の発展を後援する」に重きを置いて活動していく所存です。また、誇れることではありませんが、フットワークの軽さに加えお酒はいける口なので各支部総会には出来る限り参加して場を盛り上げ、親睦を図りたいと思っております。さらに前会長が取り組まれてきた「短大卒業生へのバトンタッチ」すなわち次世代へのスムーズな引き継ぎも考慮して、フレッシュな意見はドシドシ取り入れていくつもりです。各支部に於かれましても支部総会への参加者(特に若い会員)が増えるような魅力溢れる企画を検討していただきますようお願い申し上げます。

以上

